

世界遺産「神宿る島」宗像・沖ノ島と関連遺産群公開講座

第6回「古代日本の祭祀と宗像」

本講座は「神宿る島」宗像・沖ノ島と関連遺産群の世界的な価値を明らかにするために
行われた調査研究成果を、最新の知見と合わせて広くお伝えすることを目指しています。

今回は、歴史・考古学を踏まえた民俗学である民俗伝承学、文献史学に基づく神道学から
古代日本における祭祀研究を進められているお二人の研究者に、宗像の祭祀、沖ノ島で
行われた祭祀の意味するものについて読み解いていただきます。

日 時：令和元年 11 月 16 日（土） 13:30-16:30

場 所：海の道むなかた館 講義室

スケジュール：

13:30 開会あいさつ

13:40 講演1「日本民俗学（伝承分析学・traditionology: the study of traditions）
からみる沖ノ島」新谷尚紀（しんたにたかのり）先生

15:00 休憩(15分)

15:15 講演2「古代神祇祭祀制度の中の宗像社」加瀬直弥（かせなおや）先生

16:30 閉会

1. 柳田國男が創始した日本民俗学は民間伝承学 *tradition populaire*

伝承 *tradition* と変遷 *transition* は一体としてみる

歴史世界を伝承と変遷の動態から分析する歴史科学

静止画 (考古学や文献史学) の精緻な成果も参照する 動画 (民俗伝承学)

参照: 『民俗伝承学の視点と方法—新しい歴史学への招待—』吉川弘文館 2018

2. 沖ノ島祭祀の変遷 *transition*: 律令神祇祭祀の形成過程が推定される ●バワボ参照

4 世紀

- 313 年 高句麗、楽浪郡を滅ぼす
- このころより、馬韓から百済が、辰韓から新羅がそれぞれ国家形成して台頭する
- 314 年 高句麗、帯方郡を陥れる
- 316 年 匈奴、西晋を滅ぼす (五胡十六国時代へ、439 年の北魏による華北統一まで)
- 343 年 高句麗、前燕に入貢
- 372 年 百済王、東晋に入貢
- 377 年 高句麗・新羅、前秦に入貢
- 391 年 倭軍、渡海 「高句麗好太王碑文」 ■第 17 号遺跡 (鏡・剣・玉)

5 世紀

- 421 年 倭王讃、宋に朝貢
- 438 年 倭王珍、宋に朝貢 「安東將軍倭国王」
- 451 年 倭王濟、「六国諸軍事安東將軍倭国王」 ■第 21 号遺跡 (鏡・剣・玉 鉄鋌)
- 475 年 高句麗、百済を攻撃し、百済王戦死、都の漢城陥落
- 478 年 倭王武、上表文 「六国諸軍事安東大將軍倭国王」

6 世紀

- 512 年 大伴金村、加耶 (任那) 4 県を百済に割譲 ■第 7 号遺跡 (金銅製馬具)
- 第 8 号遺跡 (カットグラス)
- 527 年 筑紫君磐井の乱
- 538 年 百済の聖明王、仏教と經典を倭王におくる
- 562 年 新羅が加耶を滅ぼす
- 6 世紀末 古墳時代は終焉

7 世紀

- 600 年 遣隋使 607 年 遣隋使 ■第 6 号遺跡
- 初期に 律令祭祀の萌芽 ■第 22 号遺跡 (金銅製紡績具)
- 後半に 律令祭祀の形成 ■第 5 号遺跡

8 世紀 律令祭祀の時代

■第 1 号遺跡 (9 世紀まで継続)

沖ノ島祭祀の変遷

3. 宗像三女神とは：伝承 tradition と変遷 transition の視点から

表 1 記紀の宗像三女神の記載

| | | |
|-------------|----------------------------------|---------------|
| 古事記 | | |
| 天照大御神 | 速須佐之男命の十拳の剣 三段打折 | |
| | 多紀理毘売命 (奥津島比売命) | 胸形奥津宮 |
| | 市寸島比売命 (狭依毘売命) | 胸形中津宮 |
| | 多岐都比売命 (田寸津比売命) | 胸形辺津宮 |
| 速須佐之男命 | 天照大御神の八尺の勾璣の五百津美須麻流珠 | |
| 左の御美豆良に纏ける珠 | 正勝吾勝勝速日天之忍穗耳命 | |
| 右の御美豆良に纏ける珠 | 天之菩卑能命 (建比良鳥命) | (→出雲国造……) |
| 御纒に纏ける珠 | 天津日子根命 | (→凡川内国造……) |
| 左の手に纏ける珠 | 活津日子根命 | |
| 右の手に纏ける珠 | 熊野久須毘命 | |
| 日本書紀本文 | | |
| 天照大神 | 素戔鳴尊の十握剣 打折三段 | |
| | 田心姫 | |
| | 湍津姫 | |
| | 市杵島姫 | |
| 素戔鳴尊 | 天照大神の髻・鬢・腕に纏かせる八坂瓊五百箇御統 | |
| 剣の末を齧ひ断ちて | 正哉吾勝勝速日天忍穗耳命 | |
| | 天穗日命 | (→出雲臣・土師連等が祖) |
| | 天津彦根命 | (→凡川内直…等が祖) |
| | 活津彦根命 | |
| | 熊野櫛樟日命 | |
| 日本書紀 一書第一 | | |
| 日神 | 帯かせる | |
| | 十握剣 | 瀛津島姫 |
| | 九握剣 | 湍津姫 |
| | 八握剣 | 田心姫 |
| 素戔鳴尊が | 頸 <small>うな</small> に嬰がせる五百箇御統の瓊 | |
| | 正哉吾勝勝速日天忍骨尊 | |
| | 天津彦根命 | |
| | 活津彦根命 | |
| | 天穗日命 | |
| | 熊野忍蹈命 | |
| 日本書紀 一書第二 | | |
| 天照大神 | 素戔鳴尊の瑞八坂瓊曲玉 | |
| | 瓊の端を齧ひ断ちて | 市杵島姫命 |
| | 瓊の中を齧ひ断ちて | 田心姫命 |
| | 瓊の尾を齧ひ断ちて | 湍津姫命 |
| 素戔鳴尊 | 天照大神の剣 | |
| | 剣の末を齧ひ断ちて | 天穗日命 |
| | | 正哉吾勝勝速日天忍骨尊 |
| | | 天津彦根命 |
| | | 活津彦根命 |
| | | 熊野櫛樟日命 |
| 日本書紀 一書第三 | | |
| 日神 | 自分の | |
| | 十握剣 を食して | 瀛津島姫命 (市杵島姫命) |
| | 九握剣 を食して | 湍津姫命 |
| | 八握剣 を食して | 田霧姫命 |
| 素戔鳴尊 | | |
| | 左の髻の五百箇御統瓊 | 勝速日天忍穗耳尊 |
| | 右の髻の瓊 | 天穗日命 |
| | 頸に嬰がせる瓊 | 天津彦根命 |
| | 右の臂 <small>ひじ</small> の中より | 活津彦根命 |
| | 左の足の中より | 熯之速日命 |
| | 右の足の中より | 熊野忍蹈命 (熊野忍隅命) |

(1) 構成枠組

| 基本形 | → | 変化形 1 | → | 変化形 2 |
|---------|---|--------------------|---|------------------|
| 古事記 | | 日本書紀本文 | | 一書第二 |
| 清き心なら女子 | | 清き心なら男子 | | 清き心なら男子 |
| 物実により女子 | | 物実によれば女子 なのに男子と | | 物実によるとせず に男子と |

●構成枠組としては、古事記がその基本を伝えている

清き心なら女子 物実により女子

(2) 構成要素

1. 清き心は女子

2. 三女神の齋地：祭地

日本書紀本文 天皇の系譜と五男神の記述中心

一書第二 市杵島姫命（遠瀛^{おきつみや}に居す神）

田心姫命（中瀛^{なかつみや}に居す神）

湍津姫命（海浜^{へつみや}に居す神）

この三女神の祭地は 日本書紀一書第一、一書第三、も同じ

古事記 奥津島比売命といいながら 祭神は多紀理毘売命としている
奥津島比売命オクツシマヒメノミコト イツクシマヒメノミコト
に通じる名前 タキリヒメノミコトに通じる名前ではない
ただし奥津島比売命という伝承は古い

●構成要素としては、日本書紀一書第二がその基本を伝えている

「遠瀛^{おきつみや}の祭神は、市杵島姫命、奥津島比売命・瀛津島姫命」